

令和2年第1回定例市会2月25日代表質疑

1.スマートシティの取り組み推進

Q 最先端技術などを活用したスマートシティ『Be Smart KOBE』プロジェクトの発展等、どのようなロードマップを描いているのか。

A (久元市長)テクノロジーの進化を神戸のまちづくりに積極的に取り入れていくことは大変重要である。令和7年の大阪・関西万博も見据え、データと最先端技術が相互に連動して、新しいサービスが生まれる環境を5年以内を目途に目指していきたい。

Q ビックデータ(データ連携基盤)を民間事業者が広く活用できるような仕組みを検討すべきでは?

A (寺崎副市長)リアルタイムのデータの収集と活用は、スマートシティの実現に必要不可欠。

Q 神戸市が収集したビッグデータ(データ連携基盤)の中で、医療産業都市で活用して、予防医療という形のものを活かせることができるか?

A (寺崎副市長)今後、自治体のみならず、病院や診療所等が保有する健康・医療関連データを結びつけて、ビッグデータとして活用することは重要。神戸医療産業都市の特色であります富岳や、FOCUSスパコンなどの解析ツールも駆使しながら市民の健康増進、さらには産業創出を推進していく。



スマートシティ(Be Smart KOBE)

2.青少年科学館への最先端技術導入

Q 最先端技術を市民が気軽に体感できる施設に抜本的にリニューアルすべきではないか。

教育施設を所管する教育委員会だけでなく、市長部局と連携し、検討すべき。

A (久元市長)市長部局としても、検討に積極的に関与し、教育委員会と十分連携をとりながら、早期に青少年科学館のリニューアルができるよう、積極的に取り組む。

(長田教育長)技術革新の担い手である企業、大学、あるいは研究機関などの協力をいただきながら、子供たちが最先端技術を体験することで、未来に夢を抱くことができるような科学館づくりを進めていきたい。



青少年科学館 視察

3.教育のICT導入による授業の多様化

Q 国が打ち出したGIGAスクール構想(義務教育児童・生徒1人1台の端末を配布)方針を踏まえ、神戸の未来を担うICT人材を育て、より一層効果的な教育を実施するためにも、学校現場でその整備について取り組むべき。

A (長田教育長)校内LANの高速化、1人1台の端末を国の計画年度内でありませし令和5年度までに整備をしていくために、鋭意検討を進めているところ。

今後、GIGAスクール構想に則した一層のICT学習環境の充実に向けて、取り組んで参りたい。



GIGAスクール構想(文部科学省より)

Q 小、中、高校生に対し、遠隔授業を実施できないか?1人の先生が複数の授業、また学校をまたがっての授業を実施する、生徒が休んでも、入院しても、学級閉鎖になっても、自宅からでも授業が受けられる環境も必要になってくる。

遠隔授業の技術を教育のモデル的にも入れてみてはいかがか?

A (長田教育長)学校教育において、遠隔システムを活用すると、児童・生徒が多様な意見に触れ、さまざまな体験を積む機会がふやせることで、教員の資質向上や多忙化対策の点からも効果が見込める。ICT学習環境の整備、これに遅れることなく、進めて参りたい。

4.神戸独自の商店街の活性化と世代連携

Q 商店街など、地域商業活性化支援として、商品開発モデル支援や、キャッシュレス決済導入支援など、さまざまなメニューをそろえ、多面的な支援を行っています。商店街のさらなる活性化に向け、現状をどのように分析し、どのような支援を行っているのか。

A (久元市長)これまで商店街支援策、地域商業活性化支援事業、共同施設建設費等補助、商店街への人の応援隊派遣事業などを用意、きめ細やかに対応し、社会状況やニーズに合わせて、見直しを実施してきた。

令和2年度の予算では、見違えるような街へのリノベーションを掲げ、商店街小売市場を明るく、美しく、快適に、高質化するハード整備事業を支援するクオリティアップ事業枠を新設。商店街、小売市場を支援をしていきたい。

Q 1月に神戸港に停泊したドイツの豪華客船ワールド・オデッセイのクルーの方々を東山商店街に2時間のツアーを実施。情緒あふれる港まち神戸として、温かみのある商店街のもてなしに感激。今後は、経済効果も期待できることから、この施策を積極的に取り組んでいただきたい。

A (久元市長)東山商店街での取り組みは、素晴らしい取り組みだと感じました。クルーの皆さんの客船はこれからも繰り返し訪問をしていくことになります。クルーの皆さんは、繰り返し神戸を訪れる、船内でも乗客の皆さんへの発信力も伝える力もあり、お客さんが来ていただく機会を拡大することにもつながる。積極的に支援し、また東山商店街以外の商店街にも広めていくことができると思います。

Q この取り組みを他の商店街への展開に課題が4つある。

やっぱり大きいのは英会話。実践的な英会話として、地元の中・高校生、大学生に、授業の一環というのが難しければ、部活動なり、生徒活動なり、ゼミ活動なり、英会話の実践的な対応、神戸らしい対応ということで、商店街にも若い人が来ていただいて、交流を図って、コミュニケーションを図っての対応もできるのでは?

A (岡口副市長)英語対応や広報を問わず、さまざまな形で商店街と学校・学生が連携することは、これは双方にとり、意義あるものと考えます。



令和2年2月25日の本会議にて
(代表質疑のQ&Aについては、その要旨のみを掲載しております。)

令和2年第1回定例市会予算特別委員会

2月25日、26日の本会議での代表質問の後、3つの分科会に分かれ各局別審査に入りました。私は、第3分科会を担当いたしました。6局5日間の審査のうち4局にわたって質疑の機会をいただきました。以下その報告です。

- 2月28日 港湾局:ダイヤモンド・プリンセス号で新型コロナウイルスが発生、拡大したことでクルーズ船のこれからの神戸港への影響について
- 3月 2日 経済観光局:コロナウイルスによる神戸経済への影響と市場・商店街、中小企業への支援策について
- 3月 4日 建築住宅局:人口減少対策として、子育て支援の住宅補助や新婚所帯への支援補助など神戸市の施策の効果的な広報について
- 3月 5日 都市局 神戸市が進めている三宮再整備と兵庫県が発表した元町を中心とした県庁舎の再整備構想とのなかで、県・市での協調・連携について

以上、各局別審査で我が自民党会派は持ち時間65分、同僚議員とそれぞれの角度を変え、地元選挙区の事情も交え活発に質疑いたしました。



令和2年2月28日 港湾局にて